Zeeman分裂した水素分子Fulcher帯 を用いた壁近傍のガス温度計測

<u>四竈 泰一</u>, 栗原 公紀^{a)}, 門 信一郎^{b)}, 山崎 大輔 桒原 洋介^{a)}, 図子 秀樹^{c)}, 田中 知

東京大学大学院工学系研究科 ^{a)}東京大学工学部 ^{b)}東京大学高温プラズマ研究センター^{c)}九州大学応用力学研究所

発表内容

- ●研究背景·目的
- 分子Zeeman効果の計算
- TRIAM-1Mトカマク(可動リミター観測視線)
- Zeeman分裂したFulcher-α帯スペクトルの観測
- 水素分子振動·回転温度計測

● まとめ

第9回 若手科学者によるプラズマ研究会「燃焼プラズマに向けた計測と制御」(2006/03/15-17)

研究背景·目的



ダイバータプラズマのデタッチメントには分子活性化再結合 (MAR) の寄与が重要となる。



Zeeman効果の計算 (I)

Good quantum

Λ,S

numbers







Zeeman効果の計算 (II)

$$<\gamma,\Lambda;N,S,J,M | AT^{1}(\mathbf{L})\cdot T^{1}(\mathbf{S}) | \gamma,\Lambda;N,S,J',M'>$$
A:スピン・軌道
相互作用定数
 $=A\Lambda^{2} \frac{J(J+1)-N(N+1)-S(S+1)}{2N(N+1)}$. スピン-軌道相互作用

$$\mu_{B} | B | < \gamma, \Lambda; N, S, J, M | g_{L}T_{p=0}^{1}(\mathbf{L}) + g_{S}T_{p=0}^{1}(\mathbf{S}) | \gamma, \Lambda; N, S, J', M' >$$

$$(a) = g_{L}\delta_{SS'}(-1)^{2J+2N+S-M-\Lambda+1}\Lambda(2N+1)[(2J+1)(2J'+1)]^{1/2} \\ \times \begin{pmatrix} J & 1 & J' \\ -M & 0 & M' \end{pmatrix} \begin{pmatrix} N & 1 & N \\ -\Lambda & 0 & \Lambda \end{pmatrix} \begin{cases} N & J' & S \\ J & N & 1 \end{cases}$$

$$(b) = g_{S}(-1)^{J+J'+S+N-M+1}[(2J+1)(2J'+1)]^{1/2}[S(S+1)(2S+1)]^{1/2} \\ \times \begin{pmatrix} J & 1 & J' \\ -M & 0 & M' \end{pmatrix} \begin{cases} S & J' & N \\ J & S & 1 \end{cases}$$

$$Zeeman$$

 $T_p^k(\mathbf{X})$: k階の球面テンソル (p: 空間固定座標系: p=0 z軸方向成分)

発光強度の計算

回転スペクトル発光強度
$$I_{N'N''} = hv_{N'N''} \cdot n_{N'} \cdot A_{N'N''}$$

 $n_{N'} = \frac{n_{v=0} \cdot g_{as}(2N'+1)}{Q_{rot}} \exp\left[-\frac{F(N,v)}{kT_{rot}} - \frac{\Delta G(v)}{kT_{vib}}\right]$ Q_{rot} : 分配関数
 g_{as} : 核スピン多重度
 $F(N,v)$: 回転エネル
 $\frac{4}{-}$
 $\Delta G(v)$: 振動エネルギー

A係数
 $A_{N'N''} = \frac{16\pi^3}{3h\varepsilon_0c^3} v_{N'N''}^3 (\langle \phi' | \mathbf{r}_q | \phi'' \rangle |^2)$ $(\phi' | \mathbf{r}_q | \phi'' \rangle |^2 = q_{v'v''} \cdot \langle R_e \rangle^2 \cdot S_{N'N''}$
 $FC \Box F \ error FC \ er$

*



TRIAM-1Mトカマク



2005年12月シャットダウン



TRIAM-1M可動リミター観測視線



分光器 : Acton Research AM-510 (f = 1.0 m, F/8.7, 1800 G/mm)

CCD : Andor DU440-BU2 (Back Illumination, 13.5x13.5 μ m², 2048x512 pixels)

Fulcher- α 帯発光スペクトル (実験値)



発光位置,振動·回転温度時間変化

x10¹⁹(m⁻³)

(mm)



回転温度と可動リミター温度との関係



● IRカメラでの計測 → Hot spotからの強い発光により、hot spot位置の温度を反映?

● 分子の回転温度計測 → Hot spot周辺の分子放出が有意であるような場所における リミター温度の局所値を反映?



分子スペクトルへのZeeman効果を計算により評価し、TRIAM-1Mトカマクにおいて実験的に検証した。

- 分子スペクトルのZeeman分裂から、発光位置を計測することができる。 加えて、発光強度に対してBoltzmannプロット法を適用することにより、 発光位置における局所的な振動・回転温度を評価することが可能である。
- TRIAM-1Mトカマクにおいて、可動リミター観測視線を用いたFulcher帯の計測を行った。
 - > 分子線の発光位置は、プラズマとリミターとの接触位置近傍に存在する。
 - ▶ 回転温度はプラズマ密度に同期したような形で変化 (700~950 K)。
 - Hot spot 周辺の分子放出が有意な部分におけるリミター温度を計測?
 - ** 電子密度依存性、コロナモデルの是非等に関して詳細を検討中。

コロナモデルによる振動・回転温度評価



Zeeman効果を考慮しない場合の誤差



Zeeman効果は近似的に回転量子数の 2乗に反比例するため、特に、Q1~Q2に 影響が大きく現れる。

$$\Delta \lambda_{Zeeman} \propto 1/N(N+1)$$

(N:回転量子数)

→ Q1に対する相対強度比が変化してしまう

T_{rot,d} 評価に与える誤差 「例)B = 3.0Tの場合 装置幅 0.1 nm → 誤差 ~4% 装置幅 0.05 nm → 誤差 ~8%

